

インターネットカフェ・ネットワーク

NetSurf

吉村 充晃
川端 保正

インターネットカフェとは、簡単に言うとお茶を飲みながら気軽にインターネットを体験できる場所と言われています。一概にインターネットカフェと言いましても様々な種類がありますが、大きく3種類に分かれます。1つはレストランや居酒屋などに端末機を1台から5台くらい置いてあるところ。端末を1台置いてインターネット居酒屋として雑誌などに取り上げられているところもあります。2つ目は、パソコンスクールなどが一般の方にインターネットができる端末を開放している所で、3つ目は、端末20台ほどでインターネットができる施設を整えている場所です。つまり、お店に宣伝目的でインターネットが利用できる端末を置いている所と、インターネットを全面に出して、なんとかビジネスにならないかと考えているところに分かれます。

全国に幾つ位インターネットカフェがあるかといいますが、大体76ヶ所位で、細かいものまで全て入れますと96年1月現在で95ヶ所位です。その内の半分弱が東京に集中しています。去年の6月1日に我が社がインターネットカフェを設立したところから、続々と数が増えて、11月位から第1のブームとなり一挙に数が増えました。最近では、プロバイダ自ら会員獲得のためカフェを営むところも現れてまいりましたが、残念なことにはほとんどの所はメールを受け取るサービスを行っていないということです。ただ単にWWWを見るだけという仕組みになっていて、本来のインターネットの良さが発揮されていません。

私達の周りを見渡して、何時でも気軽に楽しくインターネットが使える場所はなかなか無く、「インターネットとは何?」とか、「誰もが自宅でインターネットを楽しめるでしょうか」とか、「インターネットを使って何が出来るの?」とか、「インターネットをやってみたくてどうやってやるの?」といった質問が、いろいろお客様の方から出てまいります。先ず一番大事な事は、自分でインターネットを体験することだと考えております。体験することにより「インターネットはこんなに楽しいのか」、「いろんな可能性があるんだな」ということがわかって、新たな産業の創出や社会への貢献に繋がっていくのではないかと強く信じております。

客層は、「インターネットについて何も知らないのですが行ってもいいですか」と、不安になりながら電話してきている様な方が多く、「時代に取り残されたくない」「必要かどうか分からないけど、とにかく知っておいた方がよい」ということで来店されているようです。ノートパソコンごと持ってこられ、「ウィンドウズ95を買ったんですけどインストールの仕方が分からないので入れてくれ」と言われて、値段を幾らに設定したらよいかわからなくて困ったりとか、「自宅でインターネットをしたい、パソコンは持っているのだけどモデムの設定などの出張サービスはないのか」というようなこともあります。

我社で日経流通新聞の協力の基に調査しましたところ、来店者の男女比率では、男性が63

%で女性が37%。年齢別構成では、大体20代と30代の方が中心に来られています。職業別に見ますと会社員が57%、学生が17%、アルバイトやフリーの方が13%、自営業の方が4%、主婦の方が2%と、ビジネスマンの方が半分以上を占めています。95年10月の日経産業新聞では、ビジネスマンでインターネットに関心があると答えた人が96.5%あるにもかかわらず、日本では、まだまだアクセスする場所や機会がないという報告がなされています。来店者のパソコン歴は、5年以上パソコンを使っている方が一番多く32%でした。自宅にパソコンを持っているかどうか聞きましたところ、はいと答えた人が49%、いいえの人が51%、ほぼ互角でした。自宅でもインターネットに接続しているかという、ほとんどのの方が自宅では接続していませんでした。利用頻度については、週4回が8%、週1回程度が12%、月1~2回が17%、今回が始めてが59%、始めての方がほとんどでした。来店店の動機は、インターネットにアクセスしてみたかった人が49%、入手したい情報があった人が26%、ネットサーフィン目的の方が20%、家でやるよりも通信速度が速いので来店された方が13%でした。お客さんがどういう情報をご覧かという、ショッピング情報が19%、企業情報が25%、文化芸術系が40%、趣味娯楽が62%、マルチメディア情報が14%で、圧倒的に趣味や娯楽の情報を見ていることがわかります。何時頃お客さんが来られるかといいますと、3時から7時位の間で一番混雑するのは5時から7時です。閉店間際に来られて10分でもよいからというお客さんや、付き添いで来られて見学する方も沢山おられます。土日の特徴としまして、親子連れやカップルが非常に多いことが目立ちます。お客さんのリピート率では、大体10人中4人くらいは再び来店されることが調査の結果出ております。

インターネットカフェは採算ベースに乗るのかとよく聞かれますが、我社の京都店は十分採算ベースに乗っており、7,000名の会員を持っております。一番大事なことは立地条件で、気軽に訪れることのできる場所ではなくてはなりません。マルチメディア技術やインターネットが市民レベルで気軽に利用できるスペースは、充分整備されていないのが現状です。カフェは、今では単にお茶を飲むだけでなく、その場を通じて人との出会いが創出され、情報交換が行われ、散策・観光プランや思い出をつくる場として機能しています。この様なお茶を飲む場がインターネットに結合されて、仮想現実技術などにより生活がサイバースペース化され、現実のカフェを個人の情報発信・収集・交換の場として機能させることができたならば、素晴らしい可能性を見いだせるのではないかと考えております。市民の目の見える形でマルチメディアインターネット産業が興って来たことが大変重要で、それが刺激となってマルチメディアビジネスが普及すればよいと考えております。

次にインターネットカフェの未来像についてお話します。私が一号店を立ち上げたときには、コーヒーを飲みながらインターネットが体験できることが人の関心を集めて、これだけの来店数が見られるとは思っていませんでした。専門的な人達がバラバラと来て何か見ながら文句でも言って帰って行かれる場所にでもなるのかと思っていたのですが、開けて見たらビックリ、盛況で、オープンと同時に全部席が埋まった位でした。年代は20代位が多いのですが、ホワイトカラー層の中間管理職の方々もかなり熱心に勉強していただいております。

インターネットは一つのツールに過ぎないのですが、いまの社会が工業化社会とするなら次の情報化社会では、情報を得る能力の差が貧富の差に繋がっていくのではないかと考えています。インターネットカフェで使うことによって、少しでも情報を得る力が付けばよい、少し

でも情報リテラシーというものが高まればよいと思います。新しいメディアを使ったコミュニケーションの場の提供としても、ブームになっています。先程も申しましたように、土日になるとカップルや家族連れという方がかなり大多数を占めるのですけれども、新しいプレイスポット・デートスポットになっているのではないかと思います。家族4人で来られて、お父さんが真ん中に座るのですが、帰るときには逆に子供さんに教えてもらいながら帰って行く姿もあります。

インターネットについては、新聞や雑誌にも取り上げられていますし、いろんな本にも載っていますけれども、読んでも何を書いているのかよくわからないという方が大多数を占めています。インターネットカフェに来れば、直ぐにインターネットを使える状態になっている訳で、触れてもらいながら「パソコン通信と一緒だから慌てて家に導入する必要はないな」とか「これは凄いことができるな、何か商売に繋がるんじゃないかな」、「これを使って何かサークル活動に使えるんじゃないか」とか、そういうことを考えてもらえるような場でもあります。よく来られる方で企業の部長さんクラスの方がいらっしゃるのですが、ちょっと聞けないことを訊きに来たというのが多くて、ウィンドウズの使い方とか、フロッピーディスクの入れ方とかもわからなかった方もおられました。そういう人に教えてあげて、「インターネットカフェに来たら教えてくれたよ」と言ってもらえたら有り難いと思います。

インターネットカフェでできることとしましては、WWWによる情報検索、FTP、ネットニュース、電子メール、ビデオコンファレンス、CU-SeeME などで。私達も1度幕張メッセと京都のNetSurfを結んでCU-SeeMEで来店したお客さん同士に喋ってもらう実験をしましたけれど、そのことだけでもかなりビックリする方もおられました。こういうことができる様な時代なんだよ、ということが少しでもわかってもらえたらと思います。自力でインターネット環境を持つことはなかなか難しい、ましてやローカルエリアネットワークで一つの共同作業をしたりすることの環境を整えるのはかなり難しい、ベンチャー企業やこれからやっけて行こうと思っている企業家の人達には、かなりのネックになっていると思います。そういう人達にこのスペースを利用して自分たちで何ができるか考えながら、大体の頭の中の構想さえまとまれば後は自分で導入するというような試しの場所として使っていただきたいと思います。また、自分の作品を載せたいとか、皆が知らないような生活の知恵とかを流したいとか、サークルなどの集合場所としてインターネットカフェを使いたいとか、いろんなことができると思うのです。いろいろな会やサークルの創出の場所としても使っていただきたい、インターネットを導入する前の企業の研修の場、身体の不自由な方のニュービジネスを発見する場など、私達がインターネットカフェでやっていただきたいことです。

各家庭にPCが導入されてもインターネットカフェに来るのか、とよく質問されます。元々、コーヒーを飲む目的で来られる方もいれば待ち合わせに使われたり、商談に使われたりいろんなコミュニケーションの場ということが、喫茶店の機能としてある訳で、インターネットカフェも同じで、家の暗い部屋で一人でああでもない、こうでもないと悩んでいるのを奥さんに後ろから見られていると、今日は止めとこうかということになってしまいますけど、インターネットカフェにすれば横には同じ年代の方や様々の人達がいる、こういうサイトが面白いとか、いろんなことを考えてもらえると思うのです。そのために私達は常に家庭よりは良い環境にしておく必要がありますが、PCが家庭に入ってもまだまだインターネットカフェに人は来られると思います。テレビでインターネットも使えてテレビも使えてビデオオンデマンドも使えて、

リモコンで操作でできるような時代になるとインターネットカフェにとったら痛手かなというくらいにしか考えていません。

インターネットカフェのブームが去った後どうなるかと質問されます。しかしカフェということのコンセプトもありますし、街角の情報発信基地として、例えばもつと技術が進歩していった時、インターネットカフェに来て観光案内から次にグルメ、美味しいお菓子やお土産といった情報を知ってもらうとか、情報を受けて後アンケートをつければ発信もできる訳で、そういうものとしてインターネットカフェが機能すればと思っています。あとビジネスマンの間で、ノートブックが流行ってしまして電子メールの確認などにも使ってもらえると思います。

以上がインターネットカフェの一般論なのですが、NetSurfとしては、JRW構想、Japan Real Web 構想と言いまして、日本中をインターネットカフェというサイバースペースと現実社会の窓口となるべくネットワークさせることによって、現実社会でのクモの巣を張り巡らす構想があります。これは、NetSurfのフランチャイズ展開のコンセプトです。例えば、北海道でインターネットカフェをやっておられる方の本業が建築家で、大阪でやっておられる方も建築家であった場合に、設計図を一緒にやるとか、他業種間でのバーチャルコーポレーションも実現させたい、インターネットカフェが日本中にネットワークされれば、インターネットカフェ自体が他のビジネスにかわるができる訳です。例えば保険代理店をやりたいという場合、インターネット保険代理店になればよいわけですし、不動産屋になるとしたらインターネット不動産屋になることもできるわけです。このようにインターネットカフェをネットワークさせると、ビジネスの展開が拡がっていくのではないかと考えています。

最後に結論としまして、インターネットには現状ではセキュリティの問題とか著作権の問題、倫理の問題、通信コストの問題などいろいろな問題点を抱えていますが、様々な可能性を秘めていると思います。そしてインターネットカフェが社会の一つの情報の受発信の基地になれば、今のピラミッド社会から少しなだらかなピラミッド型社会になって、誰にでもチャンスのある時代になると思います。